

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	神奈川県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	南足柄市立南足柄中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	2	13	26
生徒数	124	104	121	3	352	

研究の概要

1. 研究主題

<p>・主題(テーマ) 「個を生かし確かな学力を身につけるための指導の工夫」 - 基礎・基本の重視と個に応じた指導を通して -</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・3年生・国語：生徒の理解の状況に応じた指導が必要なため。 ・2年生・英語：これまでの研究成果から、実施する教科の枠を広げ、研究に取り組むため。 ・3年生・英語：学校として当該教科に関するTT指導の研究実績があるため。 ・全学年・数学：学校として当該教科に関する少人数制指導の研究実績があるため。 ・その他の教科：個を生かす指導や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、指導の充実を図るため。
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「個を生かし確かな学力を身につけるための指導の工夫」 - 基礎・基本の重視と個に応じた指導を通して -</p> <p>研究の見通し(仮説) 学力の向上を目指すためには、「確かな学力」とは何か、「基礎・基本」とは何かを踏まえながら、個に応じた指導の工夫・改善に努めることが必要である。</p> <p>研究の内容・方法 ・「学力」、「基礎・基本」のとらえ方と指導法の研究 ・個に応じた指導の工夫・改善(数学科...理解や習熟の程度に応じた少人数指導、英語科...TTの工夫・改善等) ・個を生かし伸ばすための評価のあり方の研究(自己評価の工夫、ポートフォリオ評価等) ・ホームページ開設に向けての準備・研究 ・学力向上に向けての学習環境の形成(朝読書・学級活動の充実等) ・選択教科や総合的な学習の時間の工夫・改善</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 「個を生かし確かな学力を身につけるための指導の工夫」 - 基礎・基本の重視と個に応じた指導を通して -</p> <p>研究の見通し 指導法の工夫・改善に努めるとともに、家庭・地域と一体となって教育環境を整えることで、指導の効果を高めることができる。</p> <p>研究の内容・方法 ・14年度の実践を生徒、教職員、保護者や地域それぞれの立場に立って多角的に評価し、課題を明らかにして、より有効で生徒の実態に即した具体的な方策を実行していく。 ・文部科学省の教育課程実施状況調査の問題や県の学習状況調査の問題を活用し、生徒の「学力」に関する状況分析を行い、生徒の姿から本事業の成果を評価し、課題を明らかにする。 ・評価の充実と指導との一体化を図る工夫</p>
--------	---

- ・外部の人材と協力した指導の方策
- ・幼・小・中の一貫性をふまえた指導のあり方
- ・選択学習や生き方学習の充実
- ・個に応じた指導体制の工夫・改善（全ての教科にひろげていく）
- ・研究の成果をホームページ等によって公開し、本事業の普及に努め、外部からの示唆を得る。

平成16年度

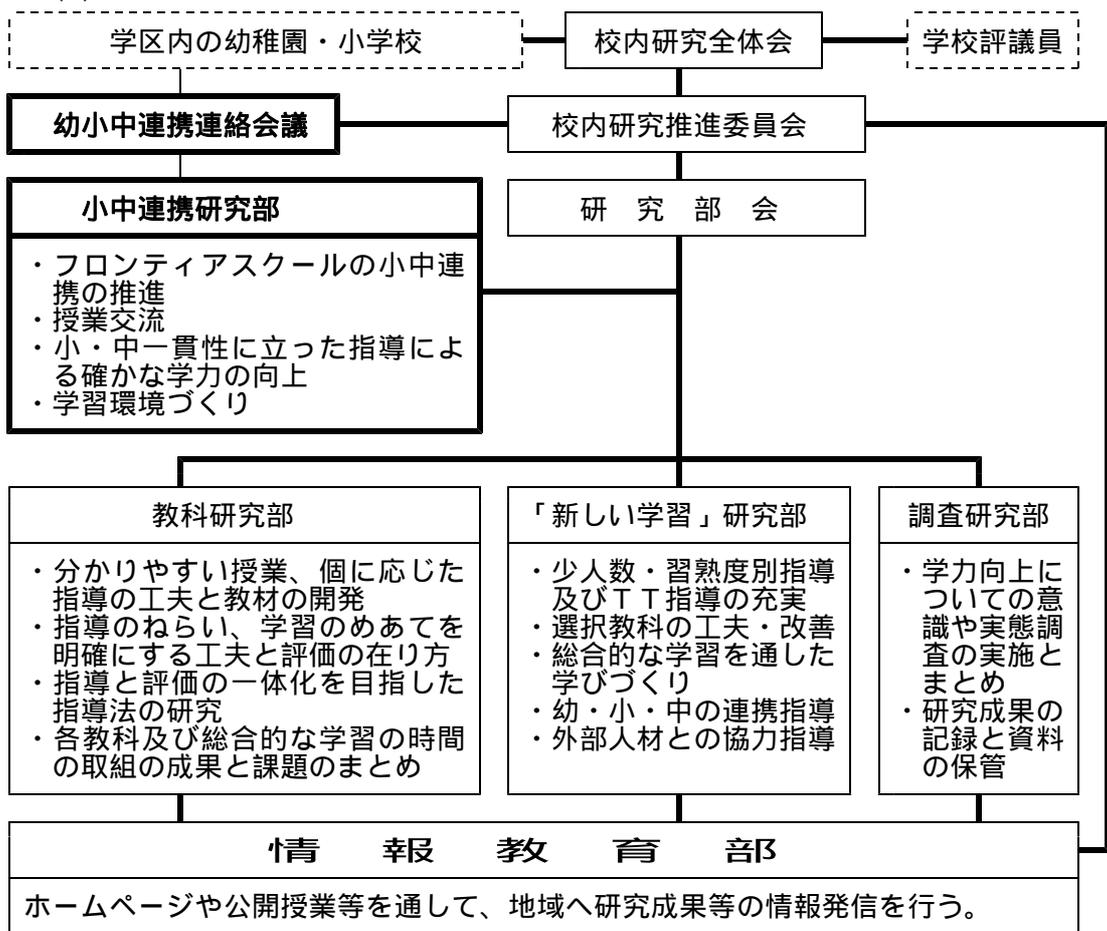
テーマ 「個を生かし確かな学力を身につけるための指導の工夫」
- 基礎・基本の重視と個に応じた指導を通して -

研究の見通し
学校・家庭・地域が一体となって、個を生かし伸ばすための指導の充実に
を図ることで、子どもたちが学習意欲を高め、確かな学力を身につける
ことができる。

研究の内容・方法

- ・生徒の「学力」に関する状況分析を行い、生徒の姿から本事業の成果を評価し、課題を明らかにする。
- ・個に応じた指導のための指導方法、支援と評価など3年間の取り組みのまとめと評価。
- ・幼・小・中の一貫性に立った指導の一層の充実に努める。
- ・次年度への基盤整備。
- ・研究してきた内容を整理して、効果的な取り組みを実践しながら、3年間の研究のまとめを行う。
- ・2学期制導入に向けての準備研究を行う中で、指導時間の確保や指導の工夫に努める。

(3) 研究推進体制



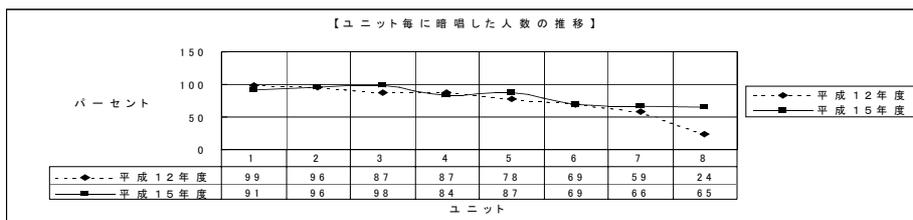
* 昨年度より、研究部会として 教科研究部、「新しい学習」研究部、調査研究部、情報教育部の4つの部会を設置し、少人数指導やTT指導を実施している教科だけ

- でなく、学校全体の取り組みと位置づけて、実践研究組織を編成している。
- * 南足柄市では、これまでも幼・小・中の連携を推進してきた経緯もあり、また、15年度より隣接する南足柄小学校がフロンティアスクールの指定を受けたので、連携による研究を進めるために、小・中連携研究部を新たに設けた。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- (1) 隣接する南足柄小学校が新たにフロンティアスクールの指定を受け、南足柄市が取り組んできた幼・小・中連携の可能性について、小中で研究が具体的に進められるようになり、小学校との交流が深まってきた。
- また、2年目を迎え、各教科が、育てたい学力について明確にとらえることが出来るようになり、研究に厚みが出てきている。
- 具体的に今年度の成果としては、次のようなものが挙げられる。
- 小・中合同教科部会、小・中連携連絡会などを開催
- 隣接しているという利点を生かし、意見交換の場を設けることで、継続して子どもたちの変容を見取る雰囲気が出来、普段から温かい雰囲気で小・中学校に行き来できるようになった。
- 習熟度別少人数指導の充実と拡大（数学科全学年と英語科2年生で実施）
- 生徒の自己評価力を高める指導を工夫しながら、コース選択については生徒の考えを最優先にして実施してきたところ、生徒が主体的に取り組む場面が多く見られるようになってきた。
- 学習支援ボランティアの活用（英語科1年生の音読指導）
- 南足柄市姉妹都市交流協会と大学生（各1名）の学習支援ボランティアに協力していただき、暗唱と音読について個別指導を実施したところ、従来は教科書が進むにつれて極端に達成率が下がっていたものが、横ばいを保っている。（グラフ参照）



- 全教科においてポートフォリオファイルへの取組の実施
- 個に視点を当て個に応じたきめの細かい指導を展開する上で、大変有効な取組であった。また、教師が個を知ることによって、生徒一人ひとりの意欲や興味、関心を引き出すための工夫に積極的に取り組めるようになった。
- 各教科での授業研究会への積極的な取組
- 全教科で研究授業を実施する中で、小学校と授業交流や授業研究会を開催することができた。その結果、今までにない意見交換ができるようになり、小・中の互いの特性を理解できるようになった。

- (2) 調査研究部のまとめから（12月実施「教育活動アンケート」）
- 昨年度実施した「教育活動アンケート」の結果と今年度の結果を比較したところ、「生徒対象アンケート」では高評価項目が6項目から11項目に増加し、低評価項目は12項目から3項目に減少した。「保護者アンケート」では、高評価項目の数は変化がなかったが、低評価項目が16項目から9項目に減少した。
- 継続した調査によっても、研究を進めていく中で、教育活動についての関心が高まり、改善点が見られる。

項目	高評価項目			低評価項目		
	生徒	保護者	教師	生徒	保護者	教師
H14年度	6	5	8	12	16	8
H15年度	11	5	11	3	9	8

2. 今後の課題

- (1) 今年度から始まった小・中連携については、まだ十分に取組内容が整理できていない部分もあるので、今後の課題としては次の3つを小・中連携の大きな柱として考えている。

- 国語科、数学（算数）科における基礎・基本の定着と一貫性に立った指導の充実
 小中の授業交流と幼・小・中のふれあい活動の充実
 学校だけでなく家庭も含めた学習習慣づくりに向けて、幼稚園、小学校、中学校の学びの連続性についての研究
- (2) 今年度は研究のすそ野を広げた1年間であったが、3年目を迎える次年度は、各研究部及び教科において、2年間の研究の中で取り組んできた内容を反省し、より絞り込んだ内容で研究の仮説が正しかったかどうかを検証する必要がある。このことは、校内研究全体会で確認した。
- (3) 継続して実施してきた「教育活動アンケート」の評価を生かし、学校全体の各組織がそれぞれの教育実践の中で効果的に相互作用できるように工夫していく必要性がある。

学力等把握のための学校としての取組

- 学習意識実態調査の実施（15年度 9月に実施）
 文部科学省からの学習意識実態の調査項目に、総合的な学習の時間と選択科目の学習についての項目を加えて実施した。文部科学省が調査内容を公開した場合に、本校の結果と比較し、今後の課題を探る手がかりになると考えた。
- 神奈川県で実施されている学習状況調査の実施（年1回 2月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 足柄上指導方法改善研修会(第1回)で研究経過報告(5/26)
 (2) 第1回足柄上地区学力向上推進連絡協議会(6/11)にて研究経過報告
 (3) 第1回校内授業研究会(国語科 T.T指導 授業公開)及び第2回校内研究全体会で講師(日本女子大学 吉崎静夫教授)を招いての講演会・学習会(6/26) 大磯町立国府中学校フロンティアティーチャー参加
 (4) 第2回フロンティアティーチャー研修会(9/30)
 (5) 足柄上教育事務所指導方法改善研修会(第2回)で授業公開(数学科)・研究経過報告(10/29)
 (6) 南足柄市教育研究会研究発表大会にて研究の経過報告(11/13)
 (7) 足柄下教育事務所指導方法改善研修会(第2回)に参加・研究経過報告(11/25)
 (8) 第2回足柄上地区学力向上推進連絡協議会(1/26)(足柄下地区と合同で開催)
 (9) ホームページの開設(今年度中にアップ予定)
 (10) 15年度の研究紀要作成(3月中に完成予定)
- 県内・県外からの視察の受け入れ
- | | | |
|-------|-------------------|----|
| 6/26 | 大磯町立国府中学校 | 1名 |
| 10/7 | 栃木県河内郡南河内町立南河内中学校 | 2名 |
| 11/21 | 群馬県吾妻郡高山村立高山中学校 | 7名 |
| 11/25 | 新潟県見附市立南中学校 | 1名 |

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無